

令和元年度 宮崎県立高鍋高等学校 学校評価書

重点目標	評価項目	評価指標（手段・ゴールイメージ）	自己評価		学校関係者評価	
			具体的取り組み（○成果、●課題、△継続的な課題）		評価	具体的意見
			評価	評価	評価	
学校経営ビジョン ・生徒一人ひとりがもてる力を十分に発揮して、自己実現に邁進する力を育む。 ・どんな大変な時でも、自ら一歩足を出せる前向きな人間力を育む。 ・社会に貢献できるたくましい人材を育成する。			評価基準	4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや期待を下回る 1：不十分であり改善を要する		
【目指す学校像】 保護者、地域、同窓会との連携による信頼され愛される活力ある学校 普通科キャリア情報クラスや探究科学科の新設によって、これまでの伝統を守りつつ、新しい風が吹く学校 【目指す生徒像】 自ら求めて学び、高い志をもって、前向きに考えて目標に挑戦し続ける生徒 ニッコリ笑って、「先生！大変だけど楽しいちゃが」と言える高校生活をする生徒 【目指す教職員像】 生徒の心に火を灯す熱心な指導を展開し、自らも学び続ける教職員						
1 確かな学力の向上と進路実現	学力の向上	1. 基礎基本の定着 2. 主体的に学習する力の育成 3. 定期考査欠点保有者の減少 4. 読書の充実 5. 探究活動の充実	1. ○今年度は50分授業に戻り、小テスト等を行う余裕ができたことが基本事項の定着や読書力アップに繋がった。 ○UBUタイムをリスニングやポキャコンに効果的に活用できた。 ○学力層に関係なく個別指導を実施できた。継続させたい。 △予習時間を利用して学習に取り組む生徒が増えてきた反面、自宅学習時間はなかなか伸びない。 △毎日の生活の記録が充実しているか否かが学力差に出ている。 ●定期考査の病欠不受験者が増加傾向である。健康管理も大事。 ○テスト前の放課後を活用して、学年で組織的に自学指導や個別指導を実施し、欠点解消の効果もあげた。 △部活動顧問との連携を密にした指導が必要である。 4. ○朝の読書はおおむね良好。「朝から小論文」も継続できた。 ○学校全体で取り組んでいるピリオパバトルは、県大会で本校代表生徒が2位になり、今年も好成績をあげた。 △本を読む行為だけでなく、自ら求めて調べる姿勢を育てたい。 5. ○1年探究Ⅰのフィールドワークは、国土交通省や町などと連携して充実した学習を行うことができた。 ○2年生の探究活動では、スタート時と中間発表時の岡本尚也氏の講義が効果的だった。また、遠隔授業で小林高校と中間発表の意見交換をしあえたことは良い刺激になり自信に繋がった。 ○高校生国際シンポジウムポスター部門に2名が書類審査を通過し、本選に参加した。 ○2年普通クラスのプチ探究活動、1年全体の「総合的な探究の時間」にも探究科の取り組みが良い影響を与えている。 ○大学AO入試の結果を見ると、探究活動が様々な資質能力アップに繋がっていると実感できる。		△BUタイムの活用については英語科の取組のみ記載されているが、過去のウチノ結果等を分析して弱点強化に当てはめてはどうか。 ○成果を出そうと工夫されている点は評価できる。 ●宿題にしっかりと取り組んでいる生徒と、答を写すだけになっている生徒がいる。課題を「基礎」と「応用」に分けるなど全ての生徒がきちんと取り組める工夫が必要である。 ●定期考査の病欠不受験者が増加傾向にあることが懸念される。 ○朝の読書は大変よい取組だと思う。 ○探究科学科では、色々な分野の方の講演やワークショップ、フィールドワークや学習合宿など、年間を通してさまざまな活動を実施されており、学習向上に繋がっていると思うので、今後も期待したい。 ○「小丸川学習」は、地域を学ぶことで身近な課題や地域への気づき、愛着を感じるきっかけになる取組であり、継続してもらいたい。 ●普通科にも、もう少し興味ある取組みや活動を導入するとよいと思う。 ○「5. 探究活動の充実」について、12月に開催された「探究」課題研究発表会に出席させていただいたが、年々発表内容が充実していると感じている。また学校側も、概ね成果が上がっているとの自己評価がなされている。 △しかしながら、2月25日に発表された県立高校一般入試最終志願状況を見ると、学校の取組が受験生や保護者に十分に伝わっているとは言えない状況である。簡単なことではないと思うが、何が原因なのか、その分析が必要だと考える。	
	進路実現	1. 朝夕課外、土曜講座の有効活用 2. 面談を活用した生徒理解と早期目標設定 3. 学力検討会・志望校判定会の充実 4. 小論文・面接の組織的指導の強化 5. 国公立大学合格者数70名の達成 6. 難関大学合格者の輩出 7. 就職率100%の達成	1. △今年度は課外を希望制で実施した。クラス内で受講の有無が分かれるため工夫して指導を行った。 ○土曜講座では習熟度別講座を設定し、効率よく指導ができた。 ○2年生の公務員講座を早期に立ち上げ、意識付けを行った。 ●土曜講座は部活動による生徒の欠かや教員の出張等で運営が厳しい状況の日もあり、改善・検討が必要である。 2. ○UBUタイムや学年PTA、三者面談を通じて進路目標の設定や文理選択などの適切な進路指導ができた。 3. ○学力検討会では模試の結果分析、目標設定、具体的指導等を協議し、次の模試の成績向上に繋がることができた。 △今年度は実力テストと休み明け課題テストの精選を行い授業時間の確保に繋がったが、学力への影響を注視していく必要がある。 ○探究科では入学時からの成績推移資料を作成し、過年度との比較分析を行って教科指導に有効に役立てることができた。 4. ○鳴海ヶ丘祭を6月に実施したことで、9月のAO入試の出願の手続き、口頭試問や集団討論の指導を余裕をもって行うことができ、国公立大AO推薦入試では16人受験中7人合格という高い合格率をあげた。（合格率5割弱※平均2、3割） 「朝から小論文」を継続して取り組んだことも力になった。 5. ○国公立大学の現在（2/14）までの合格者数は22名である。これから始まる一般入試での生徒の健闘に期待したい。 ※ここ7年間の弘区公立大現役合格者推移 H24→H25→H26→H27→H28→H29→H30 42 38 58 59 55 49 69 6. △九州大学に2名出願している。九大オープンキャンパスツアーの実施が奏功して1、2年時点での志望者は多い。いかに受験できる学力をつけていくかが課題である。 7. ○就職は順調に内定が決まり10年連続決定率100%である。急に進学から就職に変更した生徒にも適切に対応できた。 △自衛隊関係は難関の防衛大学校に2名、航空学生に1名合格。自衛隊の合格率はやや下がった。やはり学力が合格の鍵である。	3.1	●部活動生で、課外授業や模試のスケジュールがハードになり、充実していない生徒が多いのではないかと。スケジュールの分散や模試の選択制などを工夫できないか。 △朝夕課外は毎日なくてもよいと思う。部活動や他の習い事等がある生徒もいると思うし、親の負担も大きい。 △課外を希望制にしたことにより、成績が以前とどう変化したのか検証して工夫して取り組んでもらいたい。 ○進路指導や面接指導においては多くの先生方が献身的に対応してくださり感謝している。 ○面談を通じて進路目標を明確にして指導されている点を評価したい。 △次年度は大学入試改革初年度で更なる課題が想定されるため、引き続き先を見通した指導をお願いしたい。 △評価指標5及び6についての結果が出ていない中での評価は難しい。 △評価指標7の自己評価コメントにあるように、自衛隊等への就職についても学力が鍵となるので、評価項目『学力の向上』とセットで引き続きの取り組みをお願いしたい。 ○就職決定率100%達成は生徒の努力や先生方の熱心な指導の成果であり、素晴らしいと思う。	3.2
	キャリア教育の充実	1. 各種講演会の充実 2. キャリア教育関係行事の充実 3. オープンキャンパス参加の奨励 4. インターンシップによる職業意識の高揚 5. 検定挑戦の奨励と合格率アップ 6. キャリア情報クラスにおけるキャリア教育の推進	1. ○進路講演会等を適切な学年や時季をとらえて実施できた。 2. ○進路ガイダンス（1年次）、高鍋わくわく講座（1年次）、大学出前講座（2年次）等を企画して実施した。同時に外部の進路説明会や企業説明会にも積極的に参加させ、進路意識の高揚を図ることができた。 ○1学年で地域学習を実施した。幅広い生徒の興味関心やニーズに対応して7コースを設定し、有意義な学習にできた。 3. ○オープンキャンパスの情報提供を行い、多くの生徒が参加して進学への意識を高めた。目標に対する支援も充実させたい。 4. ○生文科のインターンシップは例年と日程が異なったが、夏休み期間を有効利用して準備できた。授業で言葉遣いや電話対応等を学習して臨み、貴重な経験にできた。（20の事業所で実施） 5. ○英検や漢検へのチャレンジを奨励している。特に英検は2級に50名近くの合格者がでており効果が表れている。 ○生文科では食物・被服・情報などの各種検定に意欲的に挑戦する生徒を支援できた。特に、サービス接客実務検定では成績優秀団体として文部科学大臣表彰を受けた。（全国で3団体） 6. ○キャリア情報クラスではキャリア科目を推進リーダーを中心に計画的に実践し、働くことの意識づけを図ることができた。		○とても充実していると感じる。 △外部主催の進学や就職の説明会の参加については、弾力的に余裕を持って計画をお願いしたい。 ○各種検定へのチャレンジのサポートは素晴らしい結果も出ており感心する。 ○今後大学入試に利用される英検に意欲的に取り組み、成果を挙げている点は評価したい。 ●キャリア情報クラスは取組が不透明なため、地域や生徒が魅力を感じる点が少ない。都農高校総合学科と類似する印象が強いので、上位層の鍋高離れが進むと考えられるので、うまくアピールしていく必要がある。	
2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立	1. 挨拶ができ、容儀が端正な生徒の育成 2. 時間を大切に生徒の育成 3. ルールを遵守し、モラルやマナーを大切に生徒の育成	1. ○服装容儀や挨拶に関しては概ね良好である。さらによくするよう日常の指導を大切にしたい。 ○校門での挨拶・交通指導を一年間継続して実施できた。 2. ○学年主任を中心に継続的に進路指導を行い効果も上げた。 ●朝の読書・正姿・授業の開始準備はクラスに差がみられる。 △交通マナーに関しては地域の方から指摘を受けることもあったが、指導を重ねることで交通マナーの意識徹底を図っている。 △自転車の未施錠によるトラブルが多く、防止に努めた。 △携帯電話の持ち込み違反や利用上のトラブルが多い。人権学習や情報の授業、保健講話などで携帯電話の適正な使用について指導を行っているが、今後も様々な角度からの指導を継続したい。		○自己評価コメントにもあるように、服装容疑や挨拶については良好であると評価します。 △挨拶や身だしなみ、ルールを守ることは社会人の準備期に大切なことであると思う。凡事徹底の精神の教育が大切と感じる。 △携帯電話の持ち込みについて、県PTA連合会が学校への持ち込みを容認する方向で検討との報道があった。今後、他校の動向把握も含め、本校PTA等との協議を図ってほしい。 △携帯電話の持ち込みについて、ルール設定、トラブル対策を早急に講じてもらいたい。親としては、連絡手段があるというのはとても助かる。	
	人権意識の高揚と心の教育の実践	1. 人権教育の充実 2. 多様な生徒への対応や教育相談の充実	1. ○今年度は人権学習の年間学習計画の見直しを行い、命の大切さをテーマにした内容を全学年で取り入れ実施した。人権学習の実施する前に内容の検討を推進委員会で入念に行い、授業担当者間で十分な事前打合せを行った上で実施することができた。 ○各学期で教育相談アンケートを実施し、いじめやからかいなどの行為の状況把握と未然防止に努めた。 2. ○出席番号を男女混合にした。トラブルは一切出していない。 ○教育相談部や保健室を中心に悩みを抱える生徒の相談に細やかに対応できた。また、状況に応じてスクールカウンセラーや外部専門機関等に繋いで連携しながら対応した。強い特性を抱える生徒に対しては、ケース会議を開いて関係職員で情報を共有し、町内中学校や通級拠点校、大学と連携して指導にあたった。	2.9	△全国的な傾向として、性的マイノリティへの配慮等から制服の選択制（スボン OR スカート）を導入する学校が増えている。今後、県内の学校の動向や、生徒会及びPTA役員との議論を少しずつ積み重ねていく必要があるのではと考えます。 △不登校やいじめが水面下で起こっていないか一人ひとりに目配りを期待する。 ○教育相談については、とても丁寧に対応されていて深く感謝したい。 △多様な悩みや相談への対応は苦勞があるかと思うが、専門スタッフや関係機関と連携・情報共有を密にお願いしたい。	3.2
	美化意識、防災意識の醸成	1. 校内美化、清掃活動の充実 2. 防災教育の充実	1. ○毎日の清掃については師弟同行で取り組み、良い状況である。特にトイレは今年度かなりきれいになっている。 △クラスによっては教室の整理整頓やペットボトル等の放置が気になる。美化委員を中心に意識の徹底を図りたい。 ○花壇コンクールを年2回実施し、環境美化向上の契機とした。 2. △昨年は1回だった防災訓練を2回行うことができた。様々な天候の下での避難や授業時間以外の避難などあらゆる状況を意識してどう実践的な訓練にするかが課題である。町との連携も図ってほしい。		○毎日の清掃活動が前年度より充実されており、評価したい。 △防災訓練の回数増が図られているが、引き続き効果的な防災訓練を実施することにより、生徒の防災意識の高揚を図ってほしい。 △地域や小中保と連携して防災に取り組んで欲しい。	

3 地域に関われ信頼される活力ある学校づくり	地域・保護者及び小・中学校との連携強化	<p>1. 授業公開の実施</p> <p>2. 中学校との連携の強化</p> <p>3. 地域人材や企業の積極的な活用</p> <p>4. PTA活動の活性化</p> <p>5. 保護者との連絡体制の整備</p>	<p>1. ○今年度は鳴海ヶ丘祭の時期変更により、授業公開は平日の午前中に2日間設定した。参加者は保護者や地域の方を中心に93名。(昨年は土曜実施。100名以上の中学生を含む361名参加)授業、生徒の態度、学習環境について、アンケートでは95%以上の良い評価が得られた。</p> <p>2. ○中学3年生向け学力アップセミナーは1回だけ実施した。92名の参加があり、高い満足度を得た。また中学2年生向けハイレベル講座も2日間実施し、参加生徒の満足度は高かった。</p> <p>○中学校から要請のあった出前講座(教科指導、作文指導、学習法の指導など)を積極的に受け入れ、学力向上の支援ができた。</p> <p>○進路講演会、保健講話、消費者教育、生文科の多様な講座(お茶の淹れ方、お魚料理、ウォーキング、ブーケ作製など)で地域の専門家を招き、深い学びに繋げることができた。</p> <p>○地域・外部の諸機関との連携が進み高鍋高校独自の教育相談体制が構築できつつある。施設との密な連携も進めている。</p> <p>○PTA総会の参加は二次集会と合わせて90%超を維持した。</p> <p>○PTA奉仕作業は天候不良で延期になったが、334名の参加があり、校内美化に大いに貢献していただいた。</p> <p>○年間2回PTAと教職員、警察との合同交通指導を実施し、遅い時間にもかかわらず多くの方に協力いただいた。</p> <p>○今年度はPTAレクリエーションを実施できた。支部対抗のミニバレーで盛り上がり、大いに親睦を深めることができた。</p> <p>○緊急メール連絡システム(マメール)の加入の強化を図り、前年度の60%弱から今年度は93%に伸ばし、様々な連絡を速く確実に保護者へ伝えることができたようになった。</p>	<p>○授業公開は良い取組みなので継続して欲しい。</p> <p>●授業公開の参加者を増やすためには土日に実施するほうがよい。</p> <p>●高鍋高校の授業をアピールする機会とするなら回数を増やしたほうがよい。また、1、2年生などの早い段階で授業を体験することで鍋高を志望校にするのではないかな。</p> <p>○評価指標2『中学校との連携強化』について、準備をされる先生方のご負担は大きいものと推察します。参加生徒の満足度が高かったとのことなので、可能な範囲で引き続きの取り組みをお願いしたい。</p> <p>○特に、地域の人材を積極的に活用され、様々な学びの機会を設けておられる点を評価したい。</p> <p>○PTA活動の活性化や連絡体制の整備がこれまで以上に図られていることは評価したい。</p> <p>△PTA活動について、支部総会はPTA総会の前ではなく、後にしたほうが良い流れになるのではないかな。</p> <p>○メールでの連絡は確実なのでとても助かっている。子どもたちは連絡プリントをなかなか出さないとよく聞くので、メールでの連絡を増やすとよい。</p> <p>○マメールでの列車の運休状況等の連絡は、保護者の安心に繋がった。</p>	3.2	3.2
	広報活動や情報発信の充実	<p>1. 生徒募集活動の充実</p> <p>2. 多様な情報発信と内容の充実</p> <p>3. PTA広報活動の促進</p>	<p>1. ○オープンスクールは523名(中学生339名)の参加があった。生徒主体で運営し、探究科学科と生活文化科は学科独自のPRを行った。アンケート結果から今年も参加者の満足度が高かった。△中学校主催の高校説明会では高鍋高校の良さや3学科の特色についてPRできた。しかし、約20分の持ち時間で多くのことを伝えるのは難しいため、紹介ビデオなどを作成して中学生に楽しく紹介できる工夫ができないか検討したい。</p> <p>●パンフレットとポスターはとても良い出来であったが、完成が遅く1学期の高校説明会に間に合わなかった。担当者の負担が大きい業務なので、組織的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>2. ○新聞・TV・雑誌等の各メディアを通じて積極的にPRできた。△フェイスブックでの情報発信をこまめに行うことができたのに対し、学校ホームページの更新は少なかった。広報の目的を明確にしてや運営体制を整備する必要がある。</p> <p>●広報「明倫」の発行が滞り、地域への発信が不十分であった。</p> <p>3. ○発行が多少遅れた分もあったが、今年度も年間4回のPTA新聞を作成・発行することができた。</p>	<p>○オープンスクールが好評だとよく聞く。中学生が志望校を選択する意味で大きな行事だと感じる。</p> <p>△中学生にアピールするために、鍋高に行きたいと興味を引く内容を考えて欲しい。</p> <p>△生徒たちの声を取り入れるなどして制作してはどうか。中学生は先輩の声を聞き入れやすい。</p> <p>△パンフレット等の作成業務について、その負担が大きいことから組織的な対応が必要とのコメントがある。金銭的なものも含め同窓会に支援を求めていくことも検討してはどうか。(他校に比べ同窓会組織が充実しているという、本校の強みを生かしてはどうか。)</p> <p>●オープンスクールの実施やメディアを使った情報発信に取り組まれているが、入学志願者数の低迷が残念である。鍋高の魅力、強みをPRする工夫を期待しています。</p> <p>○昨年度同様、FBでこまめな情報発信をしている点は評価したい。</p> <p>●学校ホームページの更新頻度を上げるべき。</p> <p>△一般にまだまだ知られていない学校の魅力をアピールできるよう、工夫改善をお願いしたい。</p>	3.1	3.1
4 自主的自律的 自己の確立と文武 両道の推進	多様な生徒の活動の活性化	<p>1. 委員会活動、各種行事の充実</p> <p>2. 部活動の加入率アップと活性化支援</p> <p>3. ボランティア活動への参加の奨励</p> <p>4. リーダーの育成</p> <p>5. 個々の活動への支援</p>	<p>1. ○新入生オリエンテーション、歓迎遠足、鳴海ヶ丘祭など、生徒実行委員会と生徒会執行部を中心に準備や運営を行い、生徒の主体性を育むことができた。</p> <p>○図書委員会では読書旬間に○○などの主体的な活動ができた。また、古本バザーの売り上げを昨年よりも増やし、今年も町の社会福祉協議会へ寄付できた。</p> <p>○保健委員会ではJRC部と合同で赤十字救急法講習会に参加したり、高鍋町の防災について考えたり、独自の活動に取り組んだ。</p> <p>2. ○今年度も多くの部が県大会で上位入賞をおさめ、九州・全国大会への出場をはたすことができた。</p> <p>★高体連・高野連・高文連において県大会優勝・最優秀賞の部ラグビー、ホッケー、ボート、剣道、写真、将棋</p> <p>△部活動加入率が減少傾向にあり、加入率の向上に向けた取組み(意義や魅力の理解・活性化)が必要である。</p> <p>○部長・キャプテン集会や部活動生集いを定期的実施し、部活動生の意識の向上を促すことができた。</p> <p>3. ボランティア委員会を中心に募集の呼びかけを行い、多くの生徒が地域や社協のボランティア活動に積極的に参加した。</p> <p>○学友団活動は生徒が主体的に活動し地域に貢献できた。生徒数がかかり減少している地区があるので調整を図りたい。</p> <p>4. ○鳴海ヶ丘祭をはじめ生徒会行事では多くの生徒が実行委員に立候補し、生徒中心で企画運営を行って成功に導いた。</p> <p>○学年リーダーが学年集いを運営したり、学年掲示板に月間目標や定期考査の目標を掲示して学年を牽引する活躍をしてくれた。</p> <p>○今年もオープンスクールでは生徒主体で学校・学科の説明を行い、中学生やその保護者に積極性をアピールすることができた。</p> <p>○今年度も次のような活動において生徒が活躍した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校総体生徒活動の中心的役割 ・おにぎり甲子園入賞 ・UMKフォーラムのパネリスト ・とびたて留学JAPAN参加 	<p>●スポーツ、文化の各大会で優秀な成績を取めている点は評価したい。</p> <p>○団体・個人ともにさまざまな分野で活躍が見られ、非常に楽しみにしている。できる範囲で協力していきたい。</p> <p>△部活動のあり方も時代とともに変わっていることを理解し、古きにとられずに、伝統を大事にしながらも新しい風を入れて欲しい。</p> <p>△全国大会や九州大会に出場して活躍する部活動が増えてうれしい反面、派遣費が不足するという問題も生じており、良い形で解決できるよう期待する。</p>	3.1	3.4
	授業力の向上	<p>1. 校内授業研究の実施</p> <p>2. 教師の指導改善</p> <p>3. 新共通テストに向けての研究・実践</p> <p>4. 難関大学レベルの教科指導力養成</p>	<p>1. ○主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をテーマに、教科ごとに研究実践に取り組んだ。教育委員会主催の教科総合訪問を授業改善のまとめの場と考えていたが、来年度に延期になり計画を修正した。</p> <p>2. ○生徒による授業アンケートを11月に実施し、その結果をもとに12月に職員研修を実施した。ほとんどの教師が良好な評価を得ている。さらに3学期には、個々に授業改善目標を設定し、授業の実践とその成果と課題についてまとめていく段階である。</p> <p>3. ○センター試験に代わる新共通テストに向けた指導法の研究を各教科で進めることができた。</p> <p>△大学入試改革に向けて早めの準備を進めていたが、実施内容が大幅に変更された。正しい情報を収集共有し適切に対応したい。</p> <p>△個人レベルの取組を大学二次試験の特編授業で難関大学を担当した教員を中心に教科全体へ広げていくようにしたい。</p>	<p>○先生方の授業改善の取組に敬意を表します。</p> <p>△わかりやすく、学習意欲を掻き立てる授業を期待する。</p> <p>△授業力の向上が学力の向上に繋がることは言うまでもない。引き続きの取り組みをお願いします。</p> <p>●授業アンケートの信憑性にかける。「予習を十分にしている」と答えた生徒が多いのに在宅時間が伸びていないのは矛盾している。</p> <p>●生徒たちから、「アンケートに記入したが意見が反映されていない、授業が改善されていない」との声を聞く。</p>	2.8	2.8
5 教職員の資質 向上	危機管理やコンプライアンスの意識の高揚	<p>1. 危機管理意識の高揚と危機管理体制の充実</p> <p>2. コンプライアンス意識の高揚</p>	<p>1. ○外部講師を招いて救急法講習会を実施し、AEDを使った人命救助について一連の動作確認を行い、技術向上を図った。</p> <p>○バインボード(水に浮き首より上を固定可能な担架)を購入した。今後は災害や事故の際に有効な設備機器の拡充に努めたい。</p> <p>2. ○年間2回コンプライアンスチェックを実施した。各自で日常の行動を点検し見直すとともに学校全体のコンプライアンス向上に繋がっている。</p> <p>○教育委員会からの通知や他校で起きた事案、定期的に発生しやすい事案等を定期的に職員に発信し、注意喚起を行った。</p>	<p>△危機管理は特に重要であり、日頃から意識して指導をお願いしたい。</p> <p>△バインボードの設置について、生徒にも十分周知してもらいたい。</p> <p>●一部の教員に不適切な言動があったと聞いたので管理職の先生には指導をお願いしたい。</p>	2.8	3.3
	働き方改革の推進	<p>1. 時間管理意識の高揚</p> <p>2. 業務の効率化</p>	<p>1. ○盆の時期の閉庁日設定や長期休み中の課外の精選により休暇を取りやすい工夫を行った。</p> <p>●時間外勤務が月80時間を超える教員が多数いる。心身に支障が及ばないように管理職の対応が望まれる。</p> <p>2. ○校内メールシステムの導入で教員間の連絡が円滑になり、業務の効率化に繋がった。</p>	<p>○部活動の熱心な指導に感謝している。一部を保護者が担うなどの協力をして、先生方の超過勤務の手助けができればと考える。</p> <p>△働き方改革を推進するためには、より一層の保護者の理解が必要だと考える。学校(先生)の置かれている現状を丁寧にPTA役員等に説明し、保護者、地域で学校を支援する雰囲気醸成を図ってほしい。</p> <p>△朝夕課外の日程を変えることで、先生方の負担も減るのではないかな。</p> <p>△先生方の健康管理が十分でない状況があれば改善を望む。</p> <p>△業務多忙の中での改善は難しいかもしれないが、更なる工夫と意識改革により働き方改革を推進していただきたい。</p>	2.8	2.8